

主な感染症一覧表

登園停止期間は保育所における感染症ガイドラインに準ずる

2018・3

	病名	主な症状	感染経路	潜伏期間	感染期間	登園停止期間の目安	備考
第	インフルエンザ	高熱38～40℃ 関節や筋肉の痛み 全身がだるい 咳・鼻水・のどの痛み	飛沫 接触	1～4日	症状が出る 1日前～発症後 3日程度が感染力強い	発症後5日 かつ、解熱したあと 3日を経過するまで	肺炎や脳症等の合併症に注意。 発熱や意識の状態に気をつける。
	百日咳	風邪様症状から始まり、 1～2週間で特有のコンコンという短く激しい咳続く	飛沫 接触	7～10日 (5～12日)	感染力は発症後 2週間以内が強い	特有の咳がなくなるか、5日間の 抗生物質治療終了まで	生後6ヶ月以内の児は合併症(肺炎)に注意。 抗菌薬治療開始後7日で感染力はなくなる。
	麻疹 (はしか)	高熱、咳、鼻水、充血 一時解熱し頬粘膜に小斑点、再発熱し発疹	空気 飛沫 接触	8～12日 (7～18日)	発疹がでる2日 前～出た後4日	解熱後3日を経過するまで	熱が下がってくる頃、口の頬の内側に白い小斑点ができる。
二	結核	発熱、咳、喀痰、咯血、疲労、体重減少	空気 飛沫 接触	2年以内(特に6ヶ月以内)	喀痰の塗抹検査が陽性の間	医師が感染の恐れがないと認めるまで	成人結核患者～感染する機会が多い。
	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	発熱、片側ないし両側の耳の下の腫れと痛み(押すと痛い)	飛沫 接触		耳下腺の腫れる前7日前～腫れた後9日	腫脹後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	好発年齢は2～7歳 難聴(片側性が多い)無菌性髄膜炎、急性脳炎に合併症に注意。
種	風疹 (三日はしか)	38℃前後の発熱 発疹(淡紅色、小発疹) リンパ節の腫れ	飛沫 接触	16日～18日 (14日～23日)	発疹が出る7日 前～腫れた後9日	発疹が消えるまで	妊婦前期の感染は児の白内障、先天性心疾患等の危険あり。
	水痘 (みずぼうそう)	赤い発疹→丘疹(膨らんだ発疹)→かさぶたと発疹が変化していく	空気 飛沫 接触	2～3週間	発疹が出る1～2日前～全ての発疹がかさぶたになるまで	全ての発疹がかさぶたになるまで	妊婦の感染に注意。 接触後72時間以内にワクチン接種する事で、発症の予防、症状の軽減が期待できる。
	咽頭結膜炎 (プール熱)	38～40℃の発熱 のどの痛み、目やに、結膜の充血	飛沫 接触	2～14日	発症後咽頭から 2週間、便から数週	主な症状がなくなって2日を経過するまで	アデノウイルスによる感染症の為アルコールが効きにくい
第	流行性角結膜炎 (はやり目)	目の異物感、充血、まぶたの腫れ、目やに瞳孔に点状の濁り	飛沫 接触	2～14日	発症後2週	結膜炎の症状が消失、医師の判断により、感染の恐れがなくなるまで	アデノウイルスは1ヶ月程度で排出されるので、手洗いを励行する。
	急性出血性結膜炎	目の激しい痛み、結膜充血、異物感、涙が出る	飛沫 接触	1～3日	発症後咽頭から 1～2週、便から数週	医師に判断により、感染の恐れがなくなるまで	6～12ヶ月後に四肢(手足)に運動麻痺を合併することがある。
	腸管出血性大腸菌感染症 (O-157他)	激しい腹痛 水陽性の下痢、血便	経口 接触	3～4日 (1～8日)	便中に金排出されている間	医師の判断により、感染の恐れがなくなるまで	発症後7日目頃 溶血性尿毒症症候群をおこすことがある。
	ヘルパンギーナ	高熱(38～40℃)咽頭発赤、のどの奥に白い小さな水疱疹、のどの痛み	飛沫 接触	3～6日	発症後唾液から 1週未満、便から数週	発熱や、口腔内の水泡、潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること	感染力は発症後2日くらいまでが最も強いが便中には4週間ウイルスが排出される。
三	溶連菌感染症	発熱(39℃前後)発疹、扁桃発赤、扁桃が腫れる、咽頭痛、いちご舌	飛沫 接触	2～5日	抗菌薬治療開始後24時間経過するまで	抗菌薬内服後24～48時間が経過していること 医師による診断による	腎機能障害を合併する事があるので、抗生剤は必ず最後まで飲みきり、尿検査を受ける
	マイコプラズマ	咳、発熱、頭痛などの風邪様症状、しつこい咳が3～4週続くこともある	飛沫	2～3週間 (1～4週)	発症時がピークでその後4～6週続く	発熱や激しい咳が治まり、全身状態が良くなるまで 医師の診断による	抗生剤の治療が5日間くらいでは再熱する場合がありますので10日間くらい治療を行う
種	伝染性紅班 (りんご病)	風邪様症状、両頬の赤み、手足に網目状の紅班	飛沫	4～14日	風邪様症状出現～顔の発疹出現まで	全身状態が良いこと 医師の診断による	妊婦が感染すると流産の危険があるため注意する。
	手足口病	軽い発熱(2～3日) 小さな水疱が口の中や手足にできる	飛沫 接触	3～6日	のど:1～2週間 便:3～4週	発熱や、口腔内の水泡、潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること	まれに髄膜炎を合併することもあるので、高熱に注意する。
	伝染性膿痂疹(とびひ)	水疱ができる→破れて膿が出る。かゆみ	接触	2～10日	かさぶたが治るまで	患部が覆えない場合は、登園はしない	かさぶたからも感染する場合がありますので注意。
	感染性胃腸炎	突然の嘔吐、下痢 ロタウイルスでは米のとぎ汁様水様便	経口 接触	ノロ:半日～2日、ロタ:1～3日	主に症状がある期間	嘔吐、下痢の症状が治まり、普段の食事がとれること 医師の診断による	主な原因はロタウイルス、ノロウイルス、アデノウイルスなど

治癒証明書は必要ありませんが、登園しても大丈夫かどうか医師の診断を必ず受けて下さい